

令和6年度 第6回 江府町学校運営協議会 議事録

■期 日：令和7年2月20日（木）

■時 間：19:00～20:40

■場 所：日野川校舎 多目的ホール

<会議出席者>

【委 員】宮本会長、井上裕吉副会長、井上廉女委員、船越委員、遠藤委員、藤原委員、加藤浩美委員、川端委員、景山委員（欠席：北村委員、高津委員、加藤千恵子委員）

【事務局】持田指導主事、稲村副校長、山本教頭、竹田 CSD

1 開会

会長挨拶

2 報告

・先進地視察について 12月京都市立新町小学校、京都市立東山泉小中学校（竹田 CSD）

委 員	放課後学び教室という取組が印象に残っているので追加で紹介したい。放課後に校内でプリント学習をするもので、毎日約6名の見守り、全員で25名のスタッフで行っていた。見守りスタッフは教員ではなく、学校運営協議会で構成されていた。
委 員	先進地ではあるが、何か課題は無いのか。
委 員	運営上の課題は聞いていない。学校内の課題は保護者、先生、学校運営協議会に共有され、その都度迅速に対応していく、という感じてあった。
委 員	学校運営協議会委員の構成で、PTA の割合はどのくらいか。
委 員	正確な数は今分からないが、PTA のみではなく、PTA と地域の方とで構成されている。

3 協議

・奥大山江府学園の学校評価について

○奥大山江府学園の最終自己評価 報告（景山校長）

【自立】①ICT 機器を効果的に活用しながら、対話的で深い学びを実現する授業実践

【自立】②学習の習慣化と学力の向上 について

委 員	先日の公開授業を参観したので感想を述べたいと思う。3年生はタブレットを使っているプログラミング授業をしていた。高校にもつながるような内容で、すごいと思った。2年生は自分達で調べた江府町の事を使ってふるさとカルタを作っており、よく出来ていた。4年生は2分の1成人式という内容で、自分を振り返ることの出来る良い内容だと思った。
委 員	トライ授業は実施後の評価はされるのか。
景 山 校 長	授業のねらいやめあてなどを設定しているので、参観した先生から授業者へ感じた事を返すようにはしていた。しかし、参観の時間がなかなか取れず、機会は多くなかった。
委 員	ICT の活用をすることで、先生は楽になったか。
山 本 教 頭	教材を拡大コピーして掲示するような作業が無くなったこと、子どものノートを全員で共有するのが簡単になったことなど楽になった部分はある。
稲村副校長	デジタル教科書を利用することで、例えば英語の発音を繰り返し聞く場面など、楽になったこともある。しかし、準備に時間がかかる時もあるので、一概には言えない。慣れもあると思う。

委 員	資料を見ると、「低学年には静止画を見て考えさせたり、鉛筆・ノートを使ったりする学習も大切にしたい」「タブレットがないと不安、無いとじっとしてられない児童がいる」ということでタブレットの使い方について不安に感じているという先生の意見があるようだ。課題解決について具体的な方策は何か考えているか。
景 山 校 長	先日発行の学校だよりでも触れたが、功罪を見極める必要があると思う。学校ではもちろんだが、家庭でも必要であり、新一年生の入学説明会でも保護者向けに話をした。保護者、子ども自身も功罪を知った上でスマホやタブレットに触れていくべきだと思うので、折々に説明していく機会を持つようにする。
委 員	奥大山江府学園の基礎学力についてはどうか。
景 山 校 長	学力調査の結果は、学級の人数が少ないため一人一人の影響が大きく、学年平均で判断することは難しいが課題はあると感じている。要因としては、メディアの付き合い方もあるだろう。また、人数の多い学校に比べると切磋琢磨するという意識が薄いところもある。 5・4制にしたことで、6年生が9年生の受験に向かう姿を見ている。来年の新9年生が、日野川校舎で4年間を過ごした最初の9年生ということになるので、9年生の学力調査で結果が出てくれると良いと思う。

宮 本 会 長	①②について、学校自己評価の通りとする。
---------	----------------------

【敬愛】③児童生徒の交流による「やさしさ」や「あこがれ」の醸成

【創造】⑧創意を生かし、新しい学校を自分達で創ろうとする校風の涵養 について

宮 本 会 長	③⑧について、学校自己評価の通りとする。
---------	----------------------

【剛健】⑤心と体の健康づくり

【剛健】⑥一人ひとりの力を引き出す環境づくり について

委 員	日野川校舎の駅伝については自主的な参加で、人数が少ないと聞いている。ブナの森校舎のマラソンは全員参加であり、体力づくりとしての駅伝であるのであれば、全員参加でも良いのでは。
景 山 校 長	全員参加という時代もあったようだが、走るのが苦手だという子の負担感を考え、今のような自主参加のスタイルになったようだ。自分が見てきた3年の中では、今年が一番参加人数は多かったと思うので、引き続き参加を促すよう声掛けをしていこうと思う。
委 員	不登校の子に対しての先生の声掛けが、その子の特性に応じた物になっていないことがあったと聞いたことがある。特性に応じた向き合い方というものが、全ての先生で共有出来ているか。
景 山 校 長	先生の声掛けについては共有しているが、もし子どもがそのような捉えをしているのであれば改めて確認の場を設ける。不登校に関しては、学校としても課題だと思っているが、有効な手立てがなかなか見つけられない。「学校には行くものだ」という前提が問われ始めている時代に入ったと感じており、その中で学校へ行きたい、行く意味を見出せるよう今以上に考えなければならぬと思う。
委 員	発達障害と呼ばれる子が増えたとのことだが、何か対応策があるか。
景 山 校 長	学習支援員の数を増やしてもらっている。その他、通級を利用する、特別支援学級を設置するなどの対応をしている。
委 員	多様化と言われ、本当に学校に行かないといけないのかという時代である。方法は色々あると思うが、江府町は小さい学校なので、変わった案でも試しやすいと思う。こういう場で多少くらい変わったアイデアでも出し合って、チャレンジすることで課題解決につながっていくと良い。
委 員	京都の視察先では、不登校の子が教室ではなくても、まずは学校に行けるようにその子達用の別室を設置していた。江府でも出来ると良い。

景山校長	適応指導教室や教育支援センターがあり、子ども達がそこで過ごすことが出来るようになっている自治体もある。江府町でも教育委員会としてそういった動きがあるようだ。
持田指導主事	教育支援センターはないが、教育相談室は設置している。教育相談室の先生が出かけて行って子どもと話が出来るように進めているところである。
景山校長	現時点でも、相談室登校という形で対応をしている。相談室用に教員を配置は出来ていないため、空いた教員が出来る限り対応している。この先は配置が必要かもしれないし、もしかしたら対応するのは教員ではなく地域の方の力をお借りするということも多様化の一つとしてあるのかもしれない。
委員	まなびや縁側との連携するのはどうか。
景山校長	まなびや縁側は社会教育の範囲なので、学校教育と社会教育のすみ分けの課題があるかと思う。また、もしまなびや縁側として受け入れるとなった場合、まなびや縁側に行くことで出席扱いと出来るかどうかということもあると思う。もし出席扱いと出来るということであればまた一つの選択肢とすることも出来るかもしれない。適応指導教室の認定については、以前ほど難しくなくなったという印象があるので、多様化の時代の中で、色々と検討していく必要があると思う。
委員	登校扱いになるかどうかについては、高校入試に関わってくる場合もあるので、学校以外の場所でも登校扱いになるとすれば、嬉しいことだと思う。

宮本会長	⑤⑥について、学校自己評価の通りとする。
------	----------------------

【敬愛】④地域学習を通したふるさとへの愛着の醸成

【創造】⑦探究的な見方・考え方を通して、自分の生き方(キャリア)を考える力の育成 について

委員	資料の中の先生方の意見に「記録をすべき」「記録しておきたい」という文言があるが、現在、記録はどうしているのか。 また、ふるさと魅力発信科について、発信用に動画を作成してみるのはいかがでしょうか。
景山校長	ふるさと魅力発信科については教科書がなく、先生方が手探りでしている所があるので、新しく来られた先生でも理解がしやすいように、ということで書かれた意見だと思う。今後は実施したことについてのデータを共有フォルダに保存しておく、年間スケジュールとしてどの学年がどこでどのような学びをしたかが分かるようにまとめるなどしていく。 動画については、一昨年に動画作成をしたこともある。当時は江府町 YouTuberの方に全面協力していただいたので良い物が出来た。動画作成をする場合は、指導者側のスキルの課題もあると思うが、案としては有りだと思う。
委員	この場で言うことではないのかもしれないが、学園議会で出てくるアイディアは毎年とても良い物ばかりだと思っている。ところが、全く実現していない。1年に1つくらいは実現するようにしないと、子ども達のモチベーションが下がるし、町に対しての期待も持てないと思う。
景山校長	過去には実現したものもある。また、アイディア出しの時にお世話になる iclub から「企画して、提案して、実現して完成ですよ」とずっと言われ続けている。しかし、学校教育の中で実現まで持って行くのは難しい部分がある。なので、学校教育の中では企画と提案、実現については高校生も含めたまなびや縁側などの社会教育の中で出来ていくのが良いと考えている。
委員	必ずしも子ども達が実現することにこだわらなくても良い。自分たちのアイディアが形になるということが大事だと思う。
景山校長	子ども達も十七夜のボランティアなどよく参加してくれている。地域に貢献し、創っていくという達成感を味わう機会がもっとあれば、本当に力が発揮出来る場面になると思う。

宮本会長	④⑦について、学校自己評価の通りとする。
------	----------------------

委 員	評価とは直接関係ないが、校訓をもっと生徒の目につくところにも配置すると良いと思う。 駅伝については、強制ではないとしても「全員が走ろう」くらいの声掛けをしても良いと思う。 また、これからの時代は AI を勉強していく必要があると考える。
-----	---

4 その他

- ・第7回学校運営協議会 学校経営方針の承認について、3月中旬～下旬を予定
- ・コミュニティ・スクール制度化20周年記念フォーラムの案内（2月28日役場大会議室でオンライン参加予定）

5 閉会